

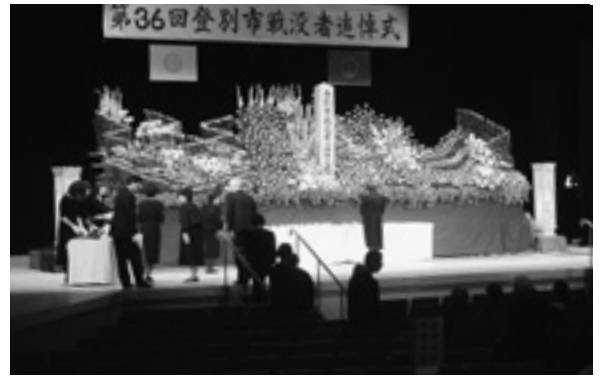
比較的低く区分判定されるとの懸念にどういふ認識を持つか。また区分判定に障害者側の「特記事項」がどの程度反映されるか。

答 一次判定の調査内容に知的障害や精神障害に係る社会性等の問題で認定が低くなる傾向がある。

このため、認定調査員の特記事項や医師の意見書で、二次判定が適正に行えるよう努めている。これまでの審査修了者のうち、二五名が二次判定で上位の区分へ変更し認定している。今後も区分認定の適正を期していきたい。

西村 孝夫 議員

問 戦没者追悼式は、年々参加者が減少し、参加者の高齢化も進んでいる。先の大戦の戦没者を慰霊し、平和への誓いを新たにすると、戦没者追悼式の意義にふさわしい方なのだろうかという思いが湧いてくる。今後、より多くの方の参列と、次の世代への継承と、平和都市宣言のまちにふさわしい平和への意識高揚のための式典であるべきと考えるがいかが。 **答** 今後は、ご遺族をはじめ多くの市民が参加し、世界平和を考えることができる催しとなるよう来年から見直す。



▲戦没者追悼式

山口 賢治 議員

今回は、昨年十二月に制定された、まちづくり基本条例について質問をしました。その条項の中には、自治推進委員会の設置が規定されています。市民と行政が協力し、協働のまちづくりを推進するためには、担当所管部局の職員は自治推進委員会の各部会に入るべきと、考えています。そこで、市職員は、どのような立場で自治推進委員会にかかわり合うのかを、聞きました。総務部長は、担当所管部局が、情報提供を求められた場合に、行政として、対等でフラットな立場として参画し、話し合いをするかと答えました。

花井 泰子 議員

問 公営住宅のガス器具などのリース代が他市より高いと考える、軽減策はないのか。

答 登別ガス協同組合には、できる限り安価な料金となるようお願いをしている。

問 ガソリンなどの高騰でも市影響をうけている。廃てんぷら油を利用して、ディーゼルエンジンに使用できる安い燃料ができることを知った。市も研究し、経費節減に活かすべきではないか。

答 廃植物油を活用したシステムで、SVOハイブリットシステムがある。先進地を参考にしながら研究・検討し、方向性を見い出す。

上村 幸雄 議員

問 市職員が飲酒運転に絡んだ違反をおこした場合は、すべて免職とすべきではないか。

答 因みに平成十年度以降、飲酒運転による処分者は三名おり、処分内容は減給から停職三ヶ月であった。

今後は各都市の基準などを検討して懲戒処分の内容に加えて、運転者に飲酒を勧めた場合や飲酒運転の車に同乗した職員も処分の対象とすることを視野に入れて、平

成十五年に改正した基準をあらためて、見直しすることにする。

松山 哲男 議員

地域活性化策として、札内大地の利活用を考えると、札内大地そのものや三百万人余の観光入込み客をはじめ、市内の様々な要素を地元資源として捉え、それらの結合による付加価値化とその利活用がポイントになる。自然・安全志向等への様々な視点で道内外客対象の農園を創る事は、地域活性化に結びつく。温泉宿泊や滞在型観光への魅力創出、雇用創出、起業化などに繋がり、少額の投資で大きな波及・相乗効果の期待が持てる交流農園構想を如何に考えるか。



▲市民農園